

とっさの時の応急処置 — 外傷編 —

監修 千葉県医師会顧問

鈴木弘祐 医師

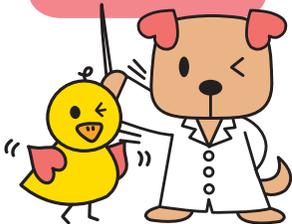


日常の暮らしの中で起こる「非常事態」。そんな時こそ、あわてずに適切な処置をしたいものです。応急処置は、知っているのと知らないのでは結果に大きな違いが出ます。ぜひ、「一読し」「とっさの時」に役立ててください。

こんな時、どのように患者を扱うか？

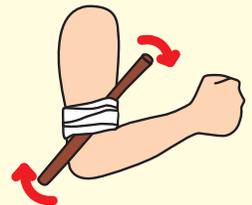
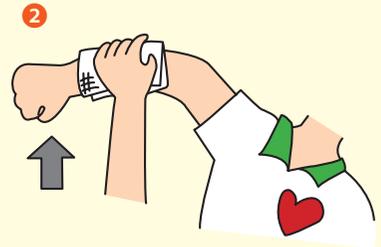
1. 顔面が紅潮している時↓頭を高くする。
2. 顔面蒼白の時↓顔を低くする。
3. 嘔吐した時↓顔を横に向ける。

基本的なことも覚えておいてくださいね！



① 出血しているときは？

- ① 傷口は、流水で洗い流す。(上水道・井戸ともOK)
- ② 傷口に、できるだけ清潔な布・タオル(滅菌ガーゼならば最適)をあて、止まる程度に上から圧迫し、心臓より高く上げる。



出血が多い場合は、傷口より中枢側(心臓側)にタオルなど長めの布を巻き、強めに結ぶ。それでも止まらない場合は、棒を差し込みねじるなど工夫が必要です。(但し、状況を十分に観察している必要があります。)

※ 上腕で図より高い位置でねじった時は、橈骨神経麻痺を起こすことがあります。

① 鼻血が出ているときは？

- ① 少し前かがみの楽な体勢にして、鼻の鼻翼部分をつまむ。出血が止まるまでつまんでいる状態を続ける。
- ② 出血が激しい場合は、ティッシュなど出血している鼻に詰め、ガーゼなどで鼻をつまんで押さえる。
- ③ それでも止まらない場合には氷嚢などを鼻にあて冷やす。



❓ 骨折・ねんざ・打撲のときは？

外からみた状態で骨折の判断はなかなかできません。
医療機関や救急隊に引きつぐまでの処置とを考えてください。

① 手・足（じょうし・かし）を痛がる場合

下肢の場合は、見かけ上、日常自然と思われる肢位（足の位置）にして寝せるか、腰掛けてもよい。上肢の場合は三角布で吊るのもよい。但し、股関節部分を痛がる時は、仰向けにし、最も痛がらぬ肢位にして救急車を待ってください。（大腿骨頸部骨折の場合は、ひざ下に枕を入れるとよい）

② 軀幹（くかん）（首から腰の胴体のあたり）を痛がる場合

異常体位は通常体位まで少しなおして、横に寝せて安静を保つ。（傷口がある場合、その部分は出血が止まるまでガーゼの上から圧迫する）

ゆれて痛い時はダンボール紙、雑誌などを副木代わりに軽く固定してもよい。



※ 患部は氷嚢や冷水タオルで冷やす。



注意：頸周辺の痛みと、上下肢の動きに支障がある場合、けいぶせきすい頸部脊髄損傷の恐れがあるので、搬送は救急隊に任せてください。

❓ 頭を打った場合はどうする？

◎ まずは、意識があるかどうか確かめましょう。（名前を呼んだり、手足を軽くつねる）

① 意識がある場合

自分の名前や日付などを質問し答えられる時や、一過性の頭痛だけなら、かかりつけ医で経過をみてもらうのもよいでしょう。

ただし、意識があっても言語不明瞭・眠気・嘔吐・頭痛・ケイレン等のある場合は、すぐに救急車で脳神経外科へ搬送してください。

② 意識がない場合

呼吸はしているか、心臓の拍動はくどう、頸部や手首で脈拍みやくはくを感じるか、確認しながらすぐに救急車を手配してください。

